

伊達市立保原小学校の『学びあい』

学校ボランティア通信

『学びあい』教育とは

“全員が分かる”ことをモットーにして、子ども同士が互いの考えを『学びあって』いく授業。一斉授業とは違い、教授しあうのは子どもたち同士となります。



先生の語り

大切にするのは「語り」



4手に高学年になると国語でまじうクラス内での友だちグループ。先生は授業の始まりと終わりで教師の「語り」の中で、他者と関わることの大切さを全員で『学びあう』ことの意義について子どもたちに考えさせます。友だちと関わることで成り立つ『学びあい』はクラスでの人間関係の構築・学級経営と密接に関係します。



先生の授業を見て



より良い「学び」のために先生の授業は細かい教材研究をしっかりとやっているのが印象的で、子どもが自主性を持って動き出す『学びあい』にむけて、話しあう際の視点が持てるような工夫やその日の学びを整理できるようなノート指導など、様々な手法を用いています。理想とする『学びあい』へステップをふみながらチャレンジしていらっしゃいます。

作成：
鈴木 晴香

児童 T さんのエピソード



勉強が得意で、自分なりのこだわりもある T-kun。この日の『学びあい』でも課題にむけてまずは1人で取りくんできました。が、その時、T君は立ちあがり、普段は4手別支援学級に、いくつかの授業はT君のクラスに受けに来るJ君の所へ行き、「今日はこの資料をこうやってまとめたい」と丁寧に声をかけていました。自分のことだけでなく、周りを思いやり、課題達成をしようとするT-kunの一面が見られました。

ある日の I 先生の授業



児童 F さんのエピソード



勉強が苦手な F-san ですが、この日の『学びあい』ではずとにこにこしていました。今日はね、いっちょり!!と自信たっぷり。F-san のとなりの女の子は F-san が分かるまでしっかり説明し、F-san も彼女の考えをしっかりと学ぼうとしており、互いに『学びあう』関係が見られました。

『学びあい』の様子

